

2023年度 東京西徳洲会病院 歯科口腔外科 初期臨床研修プログラム

東京西徳洲会病院 臨床研修の理念と基本方針

<理念>

生命を安心して預けられる病院。健康と生活を守る病院。

<基本方針>

- 1 医療技術・診療態度の向上にたえず努力する
- 2 患者様中心の医療を実践する
- 3 個々の持つ専門的知識と技術を有機的に結びつけることで、患者様にとって最適な医療を提供するチーム医療を実践する
- 4 地域に密接した総合病院として、地域で必要とされる診療科の充実を図り、救急医療では、地域救急医療センターとしての役割を担う。

東京西徳洲会病院

東京西徳洲会病院

歯科口腔外科卒後臨床研修プログラム

【プログラムの特色】

このプログラムは、東京西徳洲会病院 歯科口腔外科における、歯科医師に対する卒業後1年間の初期臨床研修プログラムです。初期研修修了後さらに1年間口腔外科、麻酔に関する専門的研修を行えます。当施設ではあらゆる口腔外科疾患、特に頭頸部癌の治療、顎顔面外傷、救急、デンタルインプラントの治療に積極的に取り組んでいます。頭頸部癌に対しては手術療法を中心に、進行癌に対しては化学放射線療法を行っています。研修期間において全身疾患を有する患者の歯科治療や埋伏智歯抜歯、インプラントなどを中心に歯科医療全般に対する基本的な知識と技術の習得を目指します。

【プログラム責任者】

佐野 次夫 歯科・口腔外科部長（社団法人日本口腔外科学会指導医・専門医）

【研修施設とその概要】

●東京西徳洲会病院 歯科・口腔外科

外来診療室 2 室（ユニット9台）

病床数 60床

●医療法人徳真会わかば台デンタルクリニック（協力型（Ⅱ））

ユニット15台

【研修期間】

管理型（東京西徳洲会病院 歯科口腔外科）

1年目管理型研修期間内に含む協力型（Ⅱ）臨床研修施設

医療法人徳真会わかば台デンタルクリニック（一般歯科研修）

1 年目ローテーション

東京西徳洲会病院（11か月）

協力型（Ⅱ）臨床研修施設（医療法人徳真会わかば台デンタルクリニック

30日間）

2 年目ローテーション（1年目研修修了者を対象とした希望制）

麻酔科研修（4カ月）、東京西徳洲会病院（歯科口腔外科スタッフ医師として）

【指導歯科医リスト】

●東京西徳洲会病院 歯科・口腔外科

佐野次夫 副院長・口腔外科部長 (研修実施責任者、指導歯科医)
木島 毅 口腔外科部長 (指導歯科医)
藤田 温志 口腔外科部長 (指導歯科医)
久保寺 翔 口腔外科医師 (指導歯科医)

●わかば台デンタルクリニック

小川真 院長・研修協力施設実施責任者 (指導歯科医)

【指導体制】

曜日 指導内容 指導担当

月	外来 (有病者歯科、小手術)	佐野次夫
火	病棟・外来 (顎関節専門外来、外来手術)	木島 毅
水	外来 (有病者歯科、小手術) 午後全身麻手術	佐野次夫
木	病棟 (全身管理 術前術後管理) 全麻手術	佐野次夫
金	午前外来 (有病者歯科、小手術) 午後全麻手術	佐野次夫 佐野次夫
	症例検討会、アフタヌーンセミナー	佐野次夫
土	病棟 (全身管理 術前術後管理)	佐野次夫

【研修の意義】

- 1 歯学部で学んだ基本的知識・技術・態度を体系化し、実践する。
- 2 生涯教育を受ける習慣・態度を有する。
- 3 科学的な探求能力を身につける。
- 4 高い倫理観と豊かな人間性、広い社会性を身につける。
- 5 病める人の全体像を捉える全人的医療を身につける。
- 6 患者様の持つ問題、家族のニーズを正しく把握し解決する能力を身につける。
- 7 他の専門職と連携する能力と協調性を身につけチーム医療を実践する。
- 8 後輩の医師に対し指導できる能力を有する。
- 9 医療における経済性を学ぶ。

【タイムスケジュール】

月 外来（有病者歯科、小手術）
火 病棟・外来（顎関節専門外来、外来手術）
水 外来（有病者歯科、小手術） 午後全身麻手術
木 病棟（全身管理 術前術後管理）全麻手術
金 午前外来（有病者歯科、小手術）
午後全麻手術
症例検討会、アフタヌーンセミナー
土 病棟（全身管理 術前術後管理）

【研修の到達度評価方法】

プログラム責任者は指導歯科医からの臨床研修内容の報告を受け、研修プログラムにおける到達目標にしたがって、研修歯科医の研修到達度を4段階評価する（A：達成、B：ほぼ達成、C：未達成、N/A：経験なし）。評価は共通プログラム用と各科個別プログラム用の2種類の評価表を用いておこない、その結果を研修管理委員会に提出する。また各研修歯科医は研修プログラムに従い随時、自己評価結果（研修到達度、経験症例数、検討会・学会発表症例数）を研修歯科医手帳に記入する。研修修了時にはすべての項目にAの評価が得られるよう努力しなければならない。また、各評価がB以上が9割以上あることを確認したうえで、初期臨床研修修了とする。

【臨床研修修了の認定】

研修歯科医より申告された自己評価結果、ならび指導歯科医評価結果に基づき、研修指導責任者は当該個別プログラムの研修修了を認定する。研修修了が認定された者に初期臨床研修修了書を交付する。

【臨床研修終了後のコース】

本プログラムの1年研修終了後、引き続き1年間、頭頸部腫瘍、顎顔面外傷、デンタルインプラントなどより専門的な研修を受けることができる。

【2023年度 募集概要（東京西徳洲会病院）】

■募集人数 2名

■研修期間 1年間（その後に希望者には1年間独自研修あり）

■研修開始日 2023年4月1日

■待遇

- 身分：医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院常勤職員（臨床研修医）
- 報酬・期末手当 給与：（基本） 1,695円／時間
賞与： 360,000円／年
- 手当：時間外手当、当直手当、通勤手当、診療手当、当直手当、住宅手当、扶養手当
- 厚生：組合健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、に加入します。
- 休暇：年次休暇1年目10日、服忌休暇など
- 宿舍：研修歯科医4戸、その他賃貸者には住宅補助制度あり
- 研修歯科医室：有
- 勤務時間（研修内容により4週8休制の為、勤務曜日の変動が生じます）
：月曜日から火曜日 8時30分～17時00分（休憩1時間）
：水曜日から金曜日 8時30分～19時00分（夕方診療2時間・休憩1時間）
：土曜日 8時30分～12時30分
- 休日：土曜日午後、日曜日
- その他休日：有給休暇10日／年、慶弔休暇
- 処遇：基本給27万円／月給（基本給）

■応募の方法

- 応募資格：原則として2024年3月に歯科医師免許取得見込みの者
- 説明・見学会：2023年4月～9月
- 採用試験：2023年8月～9月頃
- 選考試験：筆記試験（記述式：歯科口腔外科）、面接試験
- 試験日程：後日発表
- 試験会場：東京西徳洲会病院
- 出願書類提出先：〒196-0003 東京都昭島市松原町3丁目1-1
医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 人事課内田 宛
- 採用：歯科医師臨床研修マッチングに参加しますので、マッチング終了後に採用内定を通知します。2023年度歯科医師国家試験に合格した歯科医師免許取得者を正式に採用します。

■健康管理

- ・年2回健康診断、インフルエンザワクチン、肝炎ワクチン
- ・針刺し事故対策マニュアル完備

■指導体制（指導方法含む）

- (ア) 指導歯科医は、研修歯科医へ研修指導及び研修状況の評価を行う
- (イ) プログラム責任者は、研修歯科医の研修状況の評価を基に、到達目標までの状況を適宜把握し、研修修了時までには到達目標が達成できるように調整するとともに、研修管理委員会に到達目標の達成状況を報告する
- (ウ) 指導歯科医は、指導歯科医講習会を受講した臨床経験7年以上の歯科医が指導する
- (エ) 指導歯科医は、研修歯科医を担当歯科医として症例に偏りが起こらないよう受け持ち患者を配置し、指導歯科医の指導下で治療を実施する
- (オ) 指導歯科医は、研修歯科医の作成するレポートの支援及び指導する
- (カ) 研修歯科医の受け持ち患者は、症例や治療内容により単独または複数で担当する場合があります、適宜、指導歯科医が指示・指導する

臨床研修における経験症例目標数 【外来診療】 180例 【訪問診療】 0例

（※訪問診療の代替として、他科入院患者の往診治療を経験する）

研修歯科医一人あたり到達目標症例数 【外来診療】 130例 【訪問診療】 0例

目標症例数を達成した研修歯科医の割合 100%（前年度実績）

■研修記録・評価並びに評価方法

- (ア) 1年間の研修期間で各自が担当した症例やレクチャー・カンファレンスなどの実績は、配布した研修歯科医手帳に、各自がその都度記載し記録として保管をする。研修修了後に研修管理委員会がその実績を調査し、到達目標の達成度を確認する
- (イ) 研修修了後には、研修歯科医から下記の項目に関して評価をする
 - ① 研修プログラムの評価（自己評価）：プログラム目標を達成したか否かに関して
 - ② 研修プログラムと研修施設の評価：プログラム全体や研修施設としての良し悪しに関して
 - ③ 指導歯科医及び上級歯科医の評価：プログラム指導を行った歯科医師に関して
 - ④ プログラム責任者の評価：プログラム責任者の評価に関して

■臨床研修プログラムの見直し手順

- (ア) 臨床研修プログラムは、研修管理委員会で社会のニーズに応え、当院の実情に合ったものであるか評価し、必要であればその都度改善していく。研修管理委員長及びプログラム責任者が臨床研修プログラムの見直しを指導歯科医に要請し、1月～2月の期間に行なった後、プログラム変更を申請する。
- (イ) 研修歯科医の「研修プログラムと研修施設の評価」は、随時参考資料として使用する

■その他

- 歯科医師賠償責任保険加入：医療機関加入、個人の加入は任意（費用については一部補助あり）
- 外部研修会、学会参加費用：自費（一部補助あり）

■ 一般目標【GIO】

- 症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医の一人として〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に診断・治療を実践する
- 一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療の重要性を理解し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力を習得する
- 生涯にわたる研修を行うために、より広範囲に歯科医療における知識、態度及び技能を習得する態度を養う

■ 研修標準到達目標【SB0】

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、患者への説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な歯科医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳と生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。

- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3. 医学知識と問題対応能力

発展し続ける最新の医学及び医療の中で必要な知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮して臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。

- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8. 科学的探求

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身につける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9. 生涯にわたってともに学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職を教え、共に学ぶ。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新の動向（薬剤耐性菌等を含む）を把握する。

C. 基本的診療業務

1. 基本的診療能力など

本項目は、「B. 資質・能力」のうち、「2. 歯科医療の質と安全の管理」「3. 医学知識と問題対応能力」「4. 診療技能と患者ケア」「5. コミュニケーション能力」に相当する具体的到達目標を示す。

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画（症例数 | 6 例以上 - ①～⑥を一連として）

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
 <初診時医療面接、再診時医療面接>
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
 <口腔内診察、頭頸部診察、各種検査の必要性の判断、診察所見の解釈>
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
 <口腔内診察、頭頸部診察、各種検査の必要性の判断、診察所見の解釈>
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
 <担当患者の診断に関する口頭試問>
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
 <診療計画に関するカンファレンス参加、プロトコール作成>
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。
 <患者への病状説明、インフォームドコンセント、同意書の取得>

(2) 基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的手技を実践する。
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
 - a. 歯の硬組織疾患
：レジン修復（10例以上）、インレー修復（1例以上）
 - b. 歯髄疾患
：抜髄（2例以上）、感染根管処置（2例以上）
 - c. 歯周病
：歯科保健指導（5例以上）、歯周検査・スケーリング・ルートプレーニング（5例以上）
 - d. 口腔外科疾患
：乳歯抜歯（5例以上）、永久歯抜歯（10例以上）、埋伏歯抜歯（5例以上）
 - e. 歯質と歯の欠損
：歯冠補綴（5例以上）、部分床義歯（1例以上）、全部床義歯（1例以上）
 - f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
：口腔機能低下症の検査（20例以上）
- ③ 基本的な応急処置を実践する。
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
＜例：担当患者の診療に必要なバイタルサインを測定し、全身状態を評価する。＞
(20例以上)
- ⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方箋、歯科技工指示書など）を作成する。
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

(3) 患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的疾患、服用薬剤などについて説明する。
＜例：高血圧および糖尿病で医科診療中の患者に、歯科治療上の問題点と服用薬剤等について説明する。＞（10例以上）
- ② 患者の医療情報などについて、必要に応じて主治医などと診療情報を共有する。
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
＜例：心拍および血圧の状況に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う＞（5例以上）
- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
＜例：入院患者に療養上の留意事項を説明し、周術期口腔機能管理を行う。＞（20例以上）

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学童期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。

- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
- ③ 障害を有する患者への対応を実践する。

＜例：身体的または知的障がいをもつ患者の歯科診療に必要な対応を行う＞（3例以上）

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解

本項目は、「B. 資質・能力」のうち、「6. チーム医療の実践」「7. 社会における歯科医療の実践」に相当する具体的到達目標を示す。

(1) 歯科専門職間の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理などの際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的や各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
- ③ がん患者などの周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
- ④ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチームなど）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に産科し、関係者と連携する。
- ⑤ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所などにおける地域歯科保健活動を理解し、説明する。
- ③ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

■ 研修方略【LS】

- 【LS1】 指導歯科医による指導監督下に、実務研修を行う
- 【LS2】 カンファレンスで、外来新患、新入院、術前・術後等の症例についてのプレゼンテーションを行う
- 【LS3】 回診に参加する
- 【LS4】 指導歯科医とともに入院から退院までの検査治療を計画実践する
- 【LS5】 診療録、退院時サマリーを記載する
- 【LS6】 手術に参加する

■ 研修評価①【Ev】

評価 A：達成、B：ほぼ達成、C：未達成、N/A：経験なし

「A.歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価

到達目標	自己評価				指導歯科医評価			
1. 社会的使命と公衆衛生への寄与	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2. 利他的な態度	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3. 人間性の尊重	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4. 自らを高める姿勢	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

「B.資質・能力」に関する評価

到達目標	自己評価				指導歯科医評価			
1.医学・医療における倫理性	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2.歯科医療の質と安全の管理	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3.医学知識と問題対応能力	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4.診療技能と患者ケア	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5.コミュニケーション能力	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
6.チーム医療の実践	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
7.社会における歯科医療の実践	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
8.科学的探求	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
9.生涯にわたってともに学ぶ姿勢	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

「C.基本的診療業務」に関する評価

到達目標	自己評価				指導歯科医評価			
C-1.基本的診療能力								
(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
(2) 基本的臨床技能等	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
(3) 患者管理	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
C-2.歯科医療に関連する連携と制度の理解								
(1) 歯科専門職間の連携	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
(2) 多職種連携、地域連携	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

■ 指導歯科医からのコメント

研修歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

研修歯科医署名：

指導歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

指導歯科医署名：

■ 研修評価②【Ev】

評価 A：達成、B：ほぼ達成、C：未達成、N/A：経験なし

1. 医療面接 【標準到達目標：C-1.(1) (4)】

項目	自己評価				指導歯科医評価			
	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1. コミュニケーションスキルを実践する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2. 病歴（主訴、現病歴、既往歴及び家族歴）聴取を的確に行う	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3. 病歴を正確に記録する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4. 患者の心理・社会的背景に配慮する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5. 患者・家族に必要な情報を十分に提供する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
6. 患者の自己決定を尊重する（IC構築）	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
7. 患者のプライバシーを守る	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
8. 身におけるQOL（Quality Of Life）に配慮する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
9. 患者教育と治療への動機付けを行う	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

2. 総合診療計画 【標準到達目標：C-1.(1) (4)】

項目	自己評価				指導歯科医評価			
	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1. 適切で十分な医療情報を収集する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2. 基本的な診療・検査を実践する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3. 基本的な診察・検査の所見を判断する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4. 得られた情報から診断する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5. 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

3. 予防・治療基本技術 【標準到達目標：C-1.(2) (4)】

項目	自己評価				指導歯科医評価			
	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1. 基本的な予防法の手技を実施する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2. 基本的な治療法の手技を実施する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3. 医療記録を適切に作成する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4. 医療記録を適切に管理する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

4. 応急処置 【標準到達目標：C-1.(2) (4)】

項目	自己評価				指導歯科医評価			
	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1. 疼痛に対する基本的な治療を実践する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2. 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3. 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

5. 高頻度治療 【標準到達目標：C-1.(2) (4)】

■**必要**症例数とは、研修歯科医が治療の流れを連続して経験しなければいけない症例数であり、自己評価及び指導歯科医評価が、ともにAまたはB評価であった症例数である

例①) 問診 → 抜歯 → 消毒・経過

例②) 歯周病検査 → スケーリング・ルートプレーニング → 経過

■**実際**症例数とは、研修歯科医が実際に治療の流れを連続して経験した症例総数である

項目	必要症例数	実際症例数	自己評価				指導歯科医評価			
			A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1. 齶蝕の基本的な治療を実践する			A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1) レジン修復	10 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) インレー修復	1 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2. 歯髄疾患の基本的な治療を実践する			A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1) 抜髄処置	2 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 感染根管処置	2 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3. 歯周疾患の基本的な治療を実践する			A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1) 歯科保健指導	5 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) スケーリング・ルートプレーニング	5 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4. 抜歯の基本的な処置を実践する			A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1) 乳歯抜歯	1 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 永久歯抜歯	5 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 埋伏歯抜歯	1 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する			A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
1) 歯冠補綴治療	5 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 部分床義歯治療	1 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 全部床義歯治療	1 症例	症例	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
6. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下の治療を実践する			A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

1) 口腔機能低下症の検査	5 症例	症例	A	B	C	N/A
---------------	------	----	---	---	---	-----

A	B	C	N/A
---	---	---	-----

6. 医療管理・地域医療 【標準到達目標：C-2.(1) (2) (3) (4)】

項目	自己評価			
1. 保険診療を実践する	A	B	C	N/A
2. チーム医療を実践する	A	B	C	N/A
3. 地域医療に参画する	A	B	C	N/A

指導歯科医評価			
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A

■ 指導歯科医からのコメント

研修歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

指導歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

研修歯科医署名：

指導歯科医署名：

■ 研修評価【Ev】

評価 A：達成、B：ほぼ達成、C：未達成、N/A：経験なし

1. 救急処置 【標準到達目標：C-1.(3) (4)】

項目	自己評価			
1. バイタルサインを観察し、異常を評価する	A	B	C	N/A
2. 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する	A	B	C	N/A
3. 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する	A	B	C	N/A
4. 歯科診療時の全身的合併症を説明する	A	B	C	N/A
5. 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する	A	B	C	N/A
6. 一次救命処置を実践する	A	B	C	N/A
7. 二次救命処置の対処法を説明する	A	B	C	N/A

指導歯科医評価			
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A

2. 医療安全・感染予防 【標準到達目標：C-1.(2)】

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1. 医療安全対策を説明する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2. 医療事故及びヒヤリ・ハットを説明する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3. 医療過誤について説明する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4. 院内感染対策（Standard Precautions を含む）を説明する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5. 院内感染対策を実施する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

3. 地域医療 【標準到達目標：C-2.(2)(3)】

項目	自己評価				指導歯科医評価			
6. 地域歯科保健活動を説明する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
7. 歯科訪問診療を説明する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
8. 医療連携を説明する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

■ 指導歯科医からのコメント

研修歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

研修歯科医署名：

指導歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

指導歯科医署名：

歯科・歯科口腔外科臨床研修の到達目標

■ 到達目標

I. 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

II. 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

B 経験すべき症状・病態・疾患

■ 歯科臨床研修の理念

歯科臨床研修は、患者中心の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的な診療能力（態度、技能及び知識）を身に付け、生涯研修の第一歩とすることである。なお、この目標については、施行後5年以内にその施行状況等を踏まえ検討し、見直しを図る

■ 行動目標

評価 A：達成、B：ほぼ達成、C：未達成、N/A：経験なし

医療人として必要な基本姿勢・態度

(1) 患者—歯科医師関係 【標準到達目標：C-1.(1)】

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 歯科医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(2) チーム医療 【標準到達目標：C-2.(1)(2)】

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと強協調する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 指導歯科医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 上級医及び同僚歯科医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) 患者の転入・転出にあたり、情報を交換できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(3) 問題対応能力 【標準到達目標：B-3、C-1.(1)】

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる (EBM=Evidence Based Medicine の実践ができる)	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(4) 安全管理 【標準到達目標：C-2.(4)】

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 院内感染対策 (Standard Precautions を含む) を理解し、実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(5) 症例提示 【標準到達目標：C-2.(1)】

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例提示と意見交換を行う。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 症例提示と討論ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(6) 医療の社会性 【標準到達目標：C-2.(4)】

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に行動できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

■ 指導歯科医からのコメント

研修歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

研修歯科医署名：

指導歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

指導歯科医署名：

■ 経験目標

評価 A：達成、B：ほぼ達成、C：未達成、N/A：経験なし

A 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 医療面接 【標準到達目標：C-1.(1)】

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(2) 基本的な身体診察法 【標準到達目標：C-1.(1)】

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 全身の観察（バイタルサイン、精神状態、顎下・頸部リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 顔貌の所見を観察し、記載できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 口腔内診察ができ、記載できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) ミラー、摂子、探針が正しく使える	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5) 診断用口腔模型が作製できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
6) 診断用模型を使って診査ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(3) 基本的な臨床検査 【標準到達目標：C-1.(1)】

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を指示、評価する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 基本的な X 線検査法の選択ができ、依頼できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) デンタル写真、パノラマ写真の読影ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 電氣的歯髓診断ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) 歯周病基本検査ができ、記載できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5) 血液検査の概要を説明できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
6) 口腔の細菌検査を行い、結果を評価できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
7) 脈拍、血圧測定を行い、評価できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
8) 生検の介助を行い、病理組織検査依頼ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
9) 止血機能検査の評価ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
10) CT 及び MRI 検査法の依頼及び評価できる (努力目標)	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
11) 胸部 X 線写真の読影ができる (努力目標)	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
12) 心電図の評価ができる (努力目標)	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(4) 基本的手技 【標準到達目標：C-1.(2)】

基本的手技の適応を決定し、実施する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 治療前手洗いができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 清潔操作が実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 口腔内消毒法が実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) スケーリングを実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5) ブラッシング指導ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
6) 局所浸潤麻酔がで実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
7) ラバーダム防湿が実施できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
8) 単根管の根管治療 (抜髄を含む) ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
9) 残根、単純抜歯ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
10) 齶蝕病巣の処置、充填処置ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
11) 支台築造ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
12) 歯冠形成ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
13) 印象採得 (精密印象を含む) ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
14) 補綴物の調整と装着ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

15) 口腔外科基本処置（切開、排膿、止血処置縫合、 抜糸、粘骨膜剥離、ドレナージ）ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
16) 皮下注射、皮内注射、静脈注射ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
17) 静脈採血ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
18) 有床義歯の装着と使用説明ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
19) 咬合調整ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
20) テンポラリークラウンの作製と調整ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
21) 床副子の作製及び装着と使用説明ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
22) 病態写真撮影と記録、プライバシー保護ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
23) 部分床及び総義歯の設計から装着まで実施する （努力目標）	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
24) ブリッジの設計から装着までを実施する（努力 目標）	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
25) 埋伏歯の抜歯を実施する（努力目標）	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

（5）基本的治療法 【標準到達目標：C-1.(2)】

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、 環境整備を含む）ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、 薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解 熱薬、麻薬、血液製剤を含む）ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 基本的な輸液の指示ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) 輸血（成分輸血を含む）による効果と副作用に ついて理解し、輸血の指示ができる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(6) 医療記録 【標準到達目標：C-1.(2)】

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 診療録（退院時サマリーを含む）をPOS（Problem Oriented System）に従って記載し管理できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 処方箋、指導箋を作成し、管理できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 紹介状の作成と、紹介状への返信ができ、それを管理できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

(7) 診療計画 【標準到達目標：C-1.(1)】

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価する。

項目	自己評価				指導歯科医評価			
1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 入退院の適応を判断できる（デイサージャリ-症例を含む）	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) QOL（Quality of Life）を考慮にいたった総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護含む）へ参画する	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

必須項目：

- 1) 診療録の作成
- 2) 処方箋・指示書作成
- 3) 紹介状、返信の作成

B 経験すべき症状・病態・疾患

研修の最大の目標は、患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づき鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得することにある

1. 頻度の高い症状・病態・疾患 【標準到達目標：C-1.(2)】

必須項目：

- 1) 頻度の高い症状を経験し、自ら選択した項目 2 つのレポートを提出する
 - 2) 外科症例（手術を含む）を 1 例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等について
症例レポートを提出すること
- * 「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと

項目	経験数	レポート提出	自己評価				指導歯科医評価			
1) 歯痛	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
2) 顎関節痛	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
3) 開口障害	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
4) 咀嚼障害	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
5) 咬合異常	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
6) 歯肉腫脹	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
7) 歯肉出血	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
8) 歯肉膿瘍	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
9) 口腔粘膜潰瘍性病変	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
10) 口腔粘膜びらん	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
11) 口腔粘膜水疱形成	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
12) 白色病変	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
13) 歯の動揺	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
14) 脱臼歯	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
15) 破折歯	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
16) 根尖性歯周組織炎 (外歯瘻、内歯瘻を含む)	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
17) 慢性辺縁性歯周組織炎	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
18) リンパ腫脹	□□□□□	<input type="checkbox"/>	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

19) 顔面の腫脹	□□□□□	□	A	B	C	N/A
20) 皮下膿瘍	□□□□□	□	A	B	C	N/A
21) X線透過性病変 (嚢胞疾患など)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
22) X線不透過性病変 (骨硬化性病変など)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
23) 神経麻痺 (顔面神経、三叉神経など)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
24) 骨折(歯槽骨、下顎骨、 上顎骨)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
25) 顎関節脱臼	□□□□□	□	A	B	C	N/A
26) 医科系疾患の口腔ケア (がん治療前など)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
27) 有病者歯科治療	□□□□□	□	A	B	C	N/A

A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A

28) 齲蝕	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■充填	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■形成	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■充填	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■In (インレー)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■形成	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■印象	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■咬合採得	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■装着	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■Cr (クラウン)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■形成	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■印象	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■咬合採得	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■装着	□□□□□	□	A	B	C	N/A
29) 歯の欠損	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■Br (ブリッジ)	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■設計	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■形成	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■印象	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■咬合採得	□□□□□	□	A	B	C	N/A
■装着	□□□□□	□	A	B	C	N/A

A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A
A	B	C	N/A

■ R.P.D (部分床義歯)	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 設計	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 印象	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 咬合採得	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 試適	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 装着	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 粘膜調整	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ リベース	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ C.D (全部床義歯)	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 設計	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 印象	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 咬合採得	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 試適	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 装着	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ 粘膜調整	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A
■ リベース	□□□□□	□	A	B	C	N/A	A	B	C	N/A

■ 指導歯科医からのコメント

研修歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

研修歯科医署名：

指導歯科医記入欄

記載日： 年 月 日

指導歯科医署名：